

2 宇都宮の伝統文化

1 宇都宮の
百人一首 50

2 宇都宮の
唄と民話 56

3 宇都宮の
祭りと民俗芸能 64

4 宇都宮の
伝統工芸 74

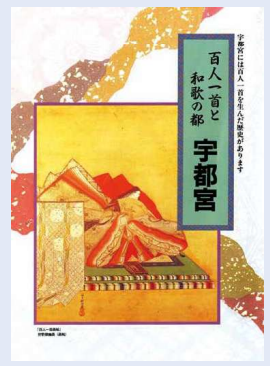
5 宇都宮の
郷土料理 80



わかるかな？

「小倉百人一首」の中の、下の①～④の「上の句」と対応する「下の句」を、線で結んでみましょう。

① ちはやぶる かみよもきかず たつたがは	② こぬひとを まつほのうらの ゆふなぎに	③ めぐりあひて みしやそれとも わかぬまに	④ あきのたの かりほのいほの とまをあらみ
やくやもし ほのみもこ かれつつ	くもかくれ にしよはの つきかな	わかころも てはつゆに ぬれつつ	からくれな るにみつく くるとは



▲『百人一首と和歌の都 宇都宮』リーフレット



- 4年 → 国語 ● 百人一首に親しもう
- 5年 → 国語 ● 「文化を受けつぐ」ことについて考えよう
● いにしえの言葉に親しもう ● いにしえの人のえがく世界
- 6年 → 社会 ● 貴族のくらし ● 武士の世の中へ
◆ 学級活動 ◆ クラブ活動

調べる

宇都宮と百人一首や和歌との関わりについて調べましょう。



2 宇都宮の伝統文化 ① 宇都宮の百人一首

1

わかし、むかし、わたしたちのまち、宇都宮に和歌の好きなお殿さまがおりました。名は宇都宮頼綱、宇都宮城主です。鎌倉時代の宇都宮城主はいへんな力があり、関東有数とうたわれていました。

3

蓮生はますます和歌が好きになりました。また、当時は屋敷の襖に和歌を貼る習慣がありました。そこで、蓮生は定家にお願いをすることにしました。この「小倉山荘色紙和歌」こそ、のちの「小倉百人一首」のもととなったものです。つまり、「小倉百人一首」の成立には、蓮生が深く関わっていたのです。

2

しかし、幕府から謀反の疑いをかけられ、お城と宇都宮の人々を守るため、やむをえず、出家し、京都に住むことになりました。頼綱は法名を蓮生入道と名乗り、当代随一の歌人、藤原定家と親しくなります。やがて、蓮生の娘と定家の息子が為家は結婚し、両家は親戚になったのです。

4

江戸時代になると百人一首は、絵や芸能、工芸品の題材として好んで使われ、また、文字や日本人の心を学ぶ文学として、広く庶民に愛されるようになりました。やがて、それは「百人一首かるた」を生み、みんなが楽しめる遊びとなりました。このように、日本の文化を代表する百人一首が私たちのまち宇都宮に深く関係があることを誇りに思いながら、和歌やかるたを楽しんでいきたいですね。

1 宇都宮の百人一首

つかむ

宇都宮と百人一首の関係について話し合ってみましょう。

うつのみや百人一首 マスコットキャラクターの「みやびい」

小野小町がモデル。宇都宮の「宮」と日本の伝統的な美しさを表す「雅」の言葉を合わせたよ。

学習問題

百人一首を生んだ和歌のまち 宇都宮

競技かるたとしても有名な「小倉百人一首」は、昔の日本の百人の歌人たちが詠んだ和歌を、一人一首ずつ集めたものです。実は、宇都宮が、この百人一首の成立に大きく関わっています。

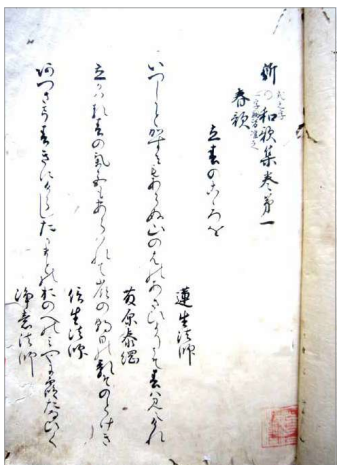
うつのみや 百人一首市民大会

百人一首のまち宇都宮

Q: 宇都宮は、「百人一首のまち」や「和歌のまち」と言われているのは、どうして？

A: 私は、宇都宮の百人一首大会に出場したことがあるよ。

なぜ宇都宮は百人一首と和歌のまちと言われているのでしょうか。



▲紙本墨書新式和歌集（二荒山神社蔵）

宇都宮歌壇と蓮生

宇都宮を中心に歌会がたびたび開かれ、宇都宮一族の中からも多くの歌人が生まれ、宇都宮で和歌の文化が開きました。こうしたことから、和歌の盛んな土地として宇都宮は、京都、鎌倉につぐ、宇都宮歌壇とよばれていました。左の「新式和歌集」は、蓮生と定家の孫にあたる藤原為氏によって集められたもので、宇都宮一族の歌人だけではなく、京都や鎌倉を代表する歌人が名を連ねています。これら、京都、鎌倉につぐ、和歌の文化を作り上げ、宇都宮歌壇の基礎を作り上げたのは、蓮生なのです。

今も続く 百人一首と和歌のまち宇都宮

宇都宮市では、平成7年から「うつのみや百人一首市民大会」が開催され、毎年多くの方が参加しており、市民大会としては国内最大の規模を誇っています。令和元年10月27日に開かれた第25回市民大会の予選第1回戦では、「同時にかかる遊びをした最多人数」のギネス世界記録®に挑戦し、701人で認定されました。また、平成26年からは、全国のトップレベルのかかる競技者が集まる、「蓮生記念 全国競技かるた宇都宮大会」が毎年開催されており、毎年レベルの高い競技がくり広げられています。



▲ギネス世界記録®
達成時の集合写真



▲百人一首大会の様子

百人一首ルールブック

宇都宮市教育委員会では、競技かるたのルールをまとめたルールブックを作成しています。市民大会に参加する前に見てみよう！



▲百人一首
いろは新聞



百人一首アニメ「カルタるっ!？」

百人一首のおもしろさや百人一首ゆかりの地であることのを分かりやすく紹介するDVD「カルタるっ!？」を文星芸術大学の協力のもと作成し、市内の小中学校に配付しています。



まとめる

宇都宮と百人一首や和歌との関わりについて調べたことをまとめてみましょう。



ワーク
シート

宇都宮と百人一首や和歌との歴史	● 宇都宮頼綱（蓮生）	● 蓮生と定家	● 宇都宮歌壇
	● 百人一首大会		
今も続く百人一首と和歌のまち宇都宮			

ひるげる

宇都宮と百人一首や和歌との関わりについてまとめて、考えてみましょう。



800年前、宇都宮頼綱の和歌への熱い思いと、日本を代表する歌人藤原定家とのきずなが、小倉百人一首を生み出しました。京都・鎌倉と並び、和歌がさかんだ鎌倉時代の宇都宮。宇都宮氏が和歌を愛した心は、「百人一首と和歌のまち 宇都宮」として、現代に受けつがれています。

宇都宮は
百人一首と深い
つながりがあるんだね。



和歌のまち うつのみや

百人一首の成立に深く関わった 蓮生と定家



▲宇都宮頼綱（蓮生）
（京都三鈷寺蔵）

宇都宮頼綱（蓮生）

宇都宮氏は、鎌倉幕府の要職につく有力な御家人でした。5代城主宇都宮頼綱のときには、幕府の執権である北条氏と親戚関係となり、幕府の中でますます力をつけていきました。

しかし、頼綱は幕府から謀反の疑いをかけられてしまい、宇都宮城と民を守るため、やむを得ず出家しました。出家した後、頼綱は蓮生と名前を変え、京都に移り住むようになりました。京都で藤原定家と出会い、小倉百人一首のもとになる色紙和歌の依頼をしました。

京都に移り住んだ後も、鎌倉幕府に仕え、6代泰綱や7代景綱を支えていました。

藤原定家

平安時代の終わりから、鎌倉時代初めにかけて活躍した日本を代表する歌人。「新古今和歌集」、「新勅撰和歌集」の撰者の一人として作品を選びました。

蓮生（頼綱）から小倉山荘の襖に貼る色紙歌を依頼され、小倉百人一首のもととなる「百人秀歌」を選んだとされています。



▲藤原定家（常寂光寺蔵）

京都に残る百人一首ゆかりの地



二尊院
定家の山荘があったといわれる場所の一つ。



厭離庵
定家の山荘があったといわれる場所の一つ。



常寂光寺
定家の山荘があったといわれる場所の一つ。ここでは、「藤原定家山荘址」、「小倉百人一首編纂之地」と書かれた石碑があります。



中院山荘跡
蓮生の山荘があったといわれる場所に貼る色紙歌を定家に依頼しました。



▲藤原定家山荘址



▲「小倉百人一首編纂之地」石碑

藤原定家の日記「明月記」

藤原定家が残した日記「明月記」には、蓮生からの色紙歌の依頼について書かれています。

嘉禎元年 五月廿七日（己未）
（略）嵯峨中院障子の色紙形、故に予に書くべき由、彼の入道懇切なり。極めて見苦しき事と雖も、愁に筆を染めて之を送る。古来の人の歌、各一首、天智天皇より以来、家隆、雅経に及ぶ（略）

【解説】
「1235年5月27日 嵯峨にある山荘の障子に貼る色紙和歌を選んでほしいと、彼の入道（蓮生）がお願いしてきた。選ぶのはむずかしかったが、筆で書いて送ってあげた。昔からの歌を一首ずつ、天智天皇から家隆、雅経までになった。」とあるように、このとき、定家によって選ばれた色紙歌が『百人秀歌』と考えられており、後に後鳥羽院や順徳院の歌を加えて整理されて、小倉百人一首の原形になったと言われています。

藤原定家（権中納言定家）の百人一首

権中納言定家
来ぬ人を
まつほの浦の
夕なぎに
焼くやもしほの
身もこがれつつ

【解説】
「いつまでも来ない人を待っている私は、松帆の浦の夕なぎのときに焼かれている藻塩のように、身も焦がれる思いです。」と、いくら待っても来てくれない恋人への思いが表現されています。松帆の浦…兵庫県淡路島の海岸の地名。「松」と「待つ」が掛詞になっています。もしほ…藻塩。海藻からとる塩。夕なぎ…夕風。夕方風が止んで海が静かになった状態。

鎌倉にもある 宇都宮氏ゆかりの場所 —宇都宮稲荷神社—

鎌倉市に、宇都宮稲荷神社という名前の神社があります。ここは、宇都宮氏の屋敷があったといわれており、家の前の通りを宇都宮辻子とよんでいました。

この付近に、11年の間、鎌倉幕府の中心地が置かれたこともあり、その当時の幕府は「宇都宮辻子幕府」とよばれていました。宇都宮氏の屋敷の近くに、幕府の中心地があったことから、宇都宮氏は鎌倉幕府からかなり信頼されていたことがうかがえます。



▲現在の宇都宮稲荷神社



宇都宮稲荷神社
所在地 鎌倉市小町2丁目15
鎌倉駅から徒歩で約10分
雪ノ下教会と鎌倉彫資料館の間の道を入り右側



▲民話の語り



宇都宮に伝わる民話

民話には「むかし むかし」で語り始められる「昔話」と、土地に結び付いた言い伝えである「伝説」があります。各地に、人物にまつわる話、植物や動物にまつわる話、神社やお寺にまつわる話など、伝説として^{げん だい}現代まで言い伝えられたさまざまな民話があります。

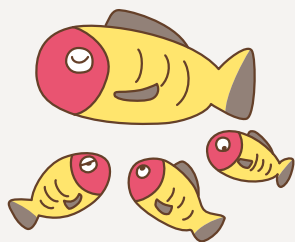
き 黄ぶなのお話

昔、宇都宮の町で^{てん ねん とう}天然痘という病気がはやって、多くの子どもたちがかかりました。高熱が続き体中につぶつぶができて、子どもたちに次々にうつり、多くの子どもがなくなっていました。町中の人々は、おそれおのきました。昔のことなので、^{げん 因}原因も分からず、お医者さんにみてもらえるのは、との様が金持ちだけでした。民衆は、戸をしめ切り神様や仏様にいのほかに方法がありませんでした。

そんな町の中に、信心深い漁師がいて、一人息子もその病にかかってしまい、今まで以上に神様に「どうか息子を助けてください。」とけんめいに祈りました。すると、「黄色いぶなを食べさせると治るぞ。」と、神様のお告げの声が聞こえました。漁師はさっそく^{た 川}田川に行ってあみを投げると、本当に大きな黄色いりっぱな

ぶながとれました。子どもに食べさせると、不思議に熱は下がり、元気になりました。

そこで、神様の御利益を感謝し、本物の黄ぶなの代わりに、張り子の黄ぶなを作って神だなにそなえ、無病息災を祈りました。それから話を聞き知った人たちはみな、張り子の黄ぶなを作り、神だなにおそなえしました。それ以来、天然痘がはやっても病気にかかる子どもはいませんでした。



▲黄ぶな



正月の初詣や初市で売られている黄ぶなには、そんな秘密があったんだね。



黄ぶなが折れる、折り紙もあるみたいだよ。



他にもいろいろな民話があるよ。調べてみよう。

→ p.62

まとめる

宇都宮の^{うた}唄や民話についてまとめてみましょう。



ワークシート

宇都宮の唄	
宇都宮の民話	

ひろげる

宇都宮の唄と民話についてまとめて、考えてみましょう。



昔から、歌いつがれ、語りつがれてきた唄や民話には、当時の人々の生活の様子や人々が大切にしていた宮っこの思いがつまっています。私たちは、これからも昔の人たちの思いや苦勞を大切に、歌いつぎ、語りつぐことで、未来へとつないでいけるといいですね。

参考にしましょう

本



『うつのみやの伝統文化』
宇都宮伝統文化連絡協議会

唄と民話のまち うつのみや

宇都宮の唄

木遣り唄と梯子乗り

労働歌として歌われた宇都宮の木遣り唄は、言い伝えによれば徳川家光の日光東照宮の建設と関係が深く、このとき、全国から大工や塗師、鳶などが集められ、冬の間宇都宮に宿泊させられました。このとき、かれらの間で歌われていた木遣りが宇都宮の職人に伝えられ、そこに独特な節回し加わって現在の形になったと言われています。

木遣りといえば梯子乗りを思いかべる方も多いと思いますが、梯子乗りは、鳶職人たちが準備体操や度胸試しの訓練として行っていたことから、木遣り唄とともに披露されるようになりました。イベントの花形である梯子乗りですが、木遣りの本来の主役は唄なのです。

鳶木遣り 出初の一覧

木遣りと合わせて梯子乗りも伝承されています。これは、梯子の上やとちゅうでさまざまな芸を行うものです。

しゃちほこ 遠見 腹亀 谷のぞき



▲鳶木遣り梯子



どれもみんな
カッコイイけど、
どの技が好き？



先人の知恵や工夫

篠井の金堀唄と草刈り唄

篠井の金堀唄は、「江戸時代の寛文年間、水戸の佐竹氏が支配していた、篠井金山の抗夫たちによって歌われたのが始まり」と言われています。

その後、時代を経るごとに歌詞・節ともに変化し、近代化して今日に伝わっています。単調でつらい労働から気をまぎらすために歌われていた作業唄で、当時の労働の素朴な感情を表現しています。



金堀唄

- 1 ハツバかければ 切羽が延びる 延びる切羽が金となる ハア、チンチン
- 2 曇るガンガラ 宝の山よ 里に黄金が流れでる ハア、チンチン
- 3 坑夫さんなら 来ないでくれ ひとり娘の 気をそらす ハア、チンチン
- 4 ひびく鎧音 女房が聞けば 黄金をあつめて 背負い出す ハア、チンチン
- 5 右に鎧持ち 左に手金 ひとつ打つたび 火花散る ハア、チンチン
- 6 灯籠ともして 黄金を掘れば 黄金色で 目がくらむ ハア、チンチン
- 7 佐竹奉行は おれらの主よ 恵み厚きで 精が出る ハア、チンチン
- 8 夫婦揃うて 黄金を掘れば いつかわがやに 煙立つ ハア、チンチン

徳次郎節 (徳次郎町)

徳次郎節は、徳次郎町および近辺の富屋地区で歌いつがれている民謡です。江戸時代、同町は日光道中の宿場町として栄え、旅籠や店が軒を連ねました。唄の起源は宿場で働く越後生まれの茶屋娘が、故郷恋しさに歌っていた唄を宿に通っていた人たちがまねて歌ったのが始まりとされています。唄の一節に「なぜか越後は山のかげヨー」の文句があります。

歌詞の基本は七・七・七・五調で、文句の後に「ヨー」が入る素朴な曲調です。昭和期の戦前まで、宴席で広く歌われてきましたが、戦後は下火となりました。しかし、1972(昭和47)年、民謡作曲家の金子嗣徳による本格的な編曲と、同町の篠原嗣賢の見事な歌い上げによって、一躍郷土の民謡になりました。1983(昭和58)年には富屋地区で徳次郎節大会が開かれ、さらに1996(平成8)年には、市制100周年記念事業として、元の唄が楽譜に書き起こされるとともに、徳次郎節保存会が組織されました。

「徳次郎よいとこだよ西北山でヨ～ 東川風ヨ～ そよそよヨ～」
「障子開ければ門前中ヨ～ なぜか越後はヨ～ 山のかげヨ～」
「日光街道の徳次郎宿はヨ～ 昔大名のヨ～ 休み場所ヨ～」
「一度来てみな徳次郎宿のヨ～ 智賀都神社のヨ～ 大げやきヨ～」



▲智賀都神社



▲鬼怒川



▲鬼怒の船頭唄を歌っている様子 (清原北小学校)

鬼怒の船頭唄 (板戸町)

栃木県のほぼ中央を北から南に流れ江戸と結ばれる鬼怒川は、江戸時代から明治時代鉄道交通が発達するまで、物資輸送の大動脈として利用されました。沿岸には阿久津・板戸・道場宿・鎗山・石井・石法寺等の河岸(川の港)が栄え、流路には小鵜飼船が行き来しました。その小鵜飼船の船頭たちが歌った唄が鬼怒の船頭唄です。

鬼怒の船頭唄は、現在、「鬼怒の船頭唄保存会」が中心となって歌いついでいますが、元は人々が記憶していた唄を民謡調に改良して歌っていたのが元唄といわれています。これをNHKラジオで聞いた鬼怒の船頭唄初代会長の増井満が後世に残そうとして、1992(平成4)年に保存会を結成し、歌詞を板戸河岸にちなんで全面的に変えたものといわれています。

船頭唄は、流れがおだやかになり櫓で漕ぎ出したところで歌われたものです。歌詞は変わっても、のどかな櫓ごぎ唄の調べは変わりません。今では全国大会が開催されるほど多くの人に唄われています。

鬼怒の船頭唄を保存し、広めるために「鬼怒の船頭唄全国大会」が開催されていて、多くの人々が参加しているよ。



宇都宮の民話

① 『釣天井』 (宇都宮城・本丸町)

江戸時代の初めごろ、当時の宇都宮城主本多正純が、日光を参詣した帰りに宇都宮城に立ち寄る予定だった將軍を、釣天井をしかけた御成御殿で殺そうとしたという話です。



▲宇都宮城

② 『汗かき阿弥陀』 (一向寺・西原2丁目)

何か異変が起きる直前に汗をかいて知らせてくれる仏様と言われています。これまで、関東大震災の直前、宇都宮空襲の前日などに汗をかいたと言われています。



▲汗かき阿弥陀

③ 『大豆三粒の金仏』 (善願寺・南大通り1丁目)

あるとき、旅の僧侶が「これを境内にまいて実った大豆を多くの人に分け増やしてゆけば、やがて資金が得られるだろう。」と大豆三粒を残していき、その10年後に大仏を造ることができたと言われています。努力の積み重ねの大切さを今に伝えています。



▲大豆三粒の金仏

④ 『だいだら坊』 (今里町)

昔々、山を造るのが好きな、だいだら坊という大男がいました。ある日、出羽(現在の山形県)の羽黒山の端を手ですくってモッコで運ぶとちゅう、下野国(現在の栃木県)で土を落としてしまい、この土の塊が宇都宮の羽黒山となったと言われています。(だいだら坊は、ダイダラボッチとも言われ、日本各地に湖や山を造ったという伝承が残されています。)

→ p.56

⑤ 『孝子桜』 (古賀志町)

「死ぬ前に桜の花を見たい」という病気の父親の願いをかなえるため、息子が大日如来に一心にお祈りをしたところ桜の花がさき、父親は喜びながら静かに息を引き取ったという親孝行の話です。



▲孝子桜

⑥ 『百目鬼』 (塙田2丁目)

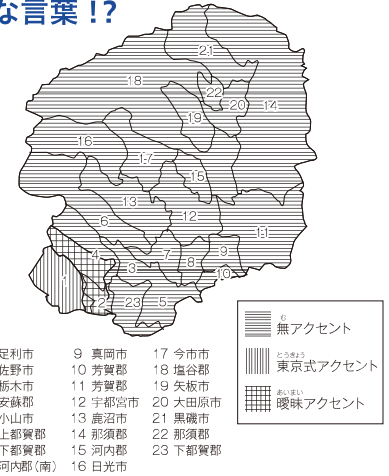
昔、平安時代の武将である藤原秀郷に弓矢で胸を射抜かれた鬼は、長岡の百穴に逃げ、隠れ住んでいました。その後400ほどたって、鬼の世界からぬけたいと願い、塙田の本願寺へ熱心に通い続けたところ、ついに人間に生まれ変わることができました。そして、この寺の周辺(現在の「百目鬼通り」周辺)を百目鬼という地名でよぶようになったと言われています。(「百目鬼」の由来については、別な言い伝えもあります。)



▲藤原秀郷 (栃木県立博物館所蔵)
▲百目鬼物語の絵本 (横川中央小学校)

宇都宮の言葉 (栃木方言) って……どんな言葉!?

栃木の方言は栃木弁ともいわれます。茨城県の茨城弁とともに東関東方言というグループに分けられますが、東北方言と似ているところもあり、発音や文法の特徴などは福島弁と共通するところが多いです。ただし、栃木弁といっても県内すべてで共通する言葉ではなく(隣町に行く与会話にならないことも!?)、宇都宮市がある県の中央と、県北(那須塩原市他)、県西(日光市他)、県東(益子町他)などに分かれ、また県の南西部では西関東方言に属する足利弁を話します。



(出典『栃木県方言辞典 改訂増補』)

栃木弁の特徴

●アクセントによる単語の区別をほとんど持たない。



あめ()とあめ()。



ぼくはどっちも同じにしゃべるね。



栃木弁はお尻が上がってかわいって、東京で評判になってるよ。

でも、歯切れがよすぎて荒っぽっていう人もいるみたいなんだ。

標準語

雨……あめ
飴……あめ

●尻上がりのイントネーション、歯切れのよさ

みんなも使ってる? 栃木弁

- | | | |
|-----------|---|------------|
| ● 「いじやける」 | ← | 標準語 「腹が立つ」 |
| ● 「うら」 | ← | 標準語 「後ろ」 |
| ● 「こわい」 | ← | 標準語 「つかれた」 |
| ● 「だいい」 | ← | 標準語 「大丈夫」 |
| ● 「わすら」 | ← | 標準語 「いたずら」 |



参考にしよう



『栃木県方言辞典』 森下 嘉一



『栃木のおもしろ方言』 森下 嘉一